

活動記録書

開催日： 平成 29年6月1日（木）曇り	開催テーマ： 満福寺・小動神社と江の島巡り
開催場所： 腰越・江の島	記入者： 清水 孝照
参加人数：	
寺社を巡る会会員	男 28名 女 5名 計 33名
ビジター	男 0名 女 0名 計 0名
合 計	33名
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）	
<p>コース： 江ノ電腰越駅⇒満福寺⇒小動神社⇒江島神社瑞心門脇の福石⇒江島神社（辺津宮・奉安殿）⇒八坂神社⇒江島神社（中津宮）⇒コッキング苑（昼食）⇒江島神社（奥津宮）⇒稚児ヶ淵⇒杉山検校の墓⇒青銅の鳥居脇（解散）</p> <p>前の晩の雨が少し残った朝で日中の天気が心配されたが、歩き出す頃は雨も止んで逆に日中の蒸し暑さが心配される天気となった。最初の満福寺は源義経の腰越状で知られる。義経は平氏を滅ぼして鎌倉に凱旋したが兄頼朝に疎んじられて鎌倉入りを拒絶された。怒りを解こうと努めたが許されず、幕府公文所別当の大江広元に書状を出して力添えを頼んだ。これが「腰越状」で境内には義経が見守る中、弁慶が書状を書いている石像が置いて有る。この書状を以てしても頼朝に受け入れられず、京に戻ったが頼朝の追討を受け、奥州藤原秀衡の元に落ち延びて匿われたが不遇の死を遂げた。義経の死までの情景が寺院の鎌倉彫の襖に残されている。腰越状の下書きの版木の写真も展示されている。結構長文である。</p> <p>次は小動神社。小動岬に立つ。源平合戦で活躍した佐々木盛綱が江ノ島弁財天に参詣の途中にその風光と小動の松に感激し近江の国八王子宮を勧請したのが始まりと伝わる。神社参道脇には7月の天王祭に出る神輿を保管する庫が五連並ぶ。江ノ島八坂神社神輿との出会祭りは大規模なものである。</p> <p>次に江の島へ渡る。江島神社（辺津宮・中津宮・奥津宮）の社伝には、欽明天皇十三年（552）に勅命で島の岩屋に神様を祀ったのが始まりと記されている。海運、漁業、交通の守護神として祀られ、御窟を本宮、奥津宮を本宮御旅所、中津宮を上之宮、辺津宮を下之宮と呼んでいた。鎌倉時代、頼朝は鳥居を奉納し、北条時政は参籠して龍の三つの鱗を授けられそれを家紋とした。また後宇多天皇は蒙古軍を打ち負かした御礼として、「江島大明神」の勅額を奉納した。奉安殿の八臂弁財天、妙音弁財天（裸弁財天）を拝観する。江島神社末社の八坂神社は天王社として祀られ、7月の例大祭では神輿の海上渡御が盛大に催される。サムエル・コッキング苑に入園し、花に囲まれながら昼食をとった。稚児ヶ淵（健脚者のみ往復）は江ノ島西南端の岩場に有るが、遠くに富士山を望む景勝地である。但し、階段の上り下りがきつい。最後に杉山検校の墓にお参りした後、青銅の鳥居脇の広場で解散した。</p>	
参加者の状況・意見など：	
未明までの雨で日中も心配されたが、降られずに終わった。強雨の為欠席の連絡が2名。	
次回の予定：	
7月6日（木）10：00 鎌倉駅 東口集合 義経と女性の物語	